

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡崎市西部学校給食センター	階数	地上2階
建設地	愛知県岡崎市筒針町字池田 87-1 他16筆	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	155 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,710 時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024/10/31 予定	評価の実施日	2023/3/31
敷地面積	9,632.13 m ²	作成者	綜企画設計 東笠子
建築面積	3,874.65 m ²	確認日	2023/3/31
延床面積	5,032.99 m ²	確認者	綜企画設計 犬飼和行



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 89%
- ③上記+②以外の: 88%
- ④上記+: 88%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px;">11.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>岡崎市産木材を1階ホールの壁に使用します。</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)岡崎市西部学校給食センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能		3.0	3.0	0.40					
2	界壁遮音性能		0.4	4.2	0.40					
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			5.0	0.60					
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.40					
1.3 吸音										
壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温		0.5	3.0	0.50					
2	外皮性能		3.0	3.0	0.38					
3	ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25					
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1	昼光率		0.2	3.5	0.25					
2	方位別開口		0.3	4.2	0.30					
3	昼光利用設備		3.0	5.0	0.60					
3.2 グレア対策										
1	昼光制御		3.0	3.0	0.40					
3.3 照度										
3.4 照明制御										
照度が500lx以上1000lx未満。										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質		0.2	4.0	0.25					
JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。										
4.2 換気										
1	換気量		0.5	4.0	0.50					
建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。										
2	自然換気性能		3.0	4.0	1.00					
自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。										
3	取り入れ外気への配慮		0.3	4.0	0.30					
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.33					
2	喫煙の制御		0.2	4.0	0.20					
全館禁煙としている。										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性		0.4	2.7	0.40					
2	高度情報通信設備対応		0.4	2.3	0.40					
3	バリアフリー計画	独自	3.0	1.0	0.33					
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	0.33					
事務室の天井高:2.7m。										
2	リフレッシュスペース		3.0	4.0	0.33					
リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。										
3	内装計画		3.0	1.0	0.33					
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計		0.3	3.0	0.30					
2	維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		0.3	3.3	0.31					
建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。										
2	免震・制震・制振性能		0.4	3.8	0.48					
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		3.0	4.0	0.80					
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	3.0	3.0	0.20					
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		0.3	3.0	0.33					
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.23					
ガルバリウムダクトを使用している。										
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			2.0	0.23					
給水SUS(C)、排水VP(B)、給湯SUS(C)。										
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.09					
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備		0.1	3.0	0.19					
2	給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20					
3	電気設備	②	3.0	3.0	0.20					
4	機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20					
5	通信・情報設備		3.0	3.0	0.20					

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり		②	工場部分(1階)階高:4.7m 事務所部分(2階)階高(最低):3.49m 0.1≤[壁長さ比率]<0.3	0.3	4.0	0.31	-	-	-	3.4
1	階高のゆとり			-	4.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	5.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	5.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.37	-	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.72。	3.0	5.0	0.23	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			3.0	2.9	0.44	-	-	-	2.9
4	効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減	②	-	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	断熱材:ポリスチレンフォーム 床の材料:イークリンNW-EX、フロアリュウム マーブルNW、フロアリュウム 複層ビニル床シート FS。	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGSとOAフロアを使用している。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	4.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率が89%。	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	I-1 自転車置き場の確保 II-1 駐車スペースの確保 II-2 荷捌き用車両の駐車施設の確保	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)岡崎市西部学校給食センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10
② 資源の有効活用			3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11
			外構緑化:11.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
			なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-
			岡崎市産木材を1階ホールの壁に使用します。

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)岡崎市西部学校給食センター

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。そして、 $2.5\% \leq [\text{昼光率}]$ 。 また、建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。
Q2 サービス性能	リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。そして、建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。また、ガルバリウムダクトを使用している。
Q3 室外環境(敷地内)	外来種を利用していない。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.72。
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。そして、LGSとOAフロアを使用している。また、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ 排出率が89%。
その他	特になし。